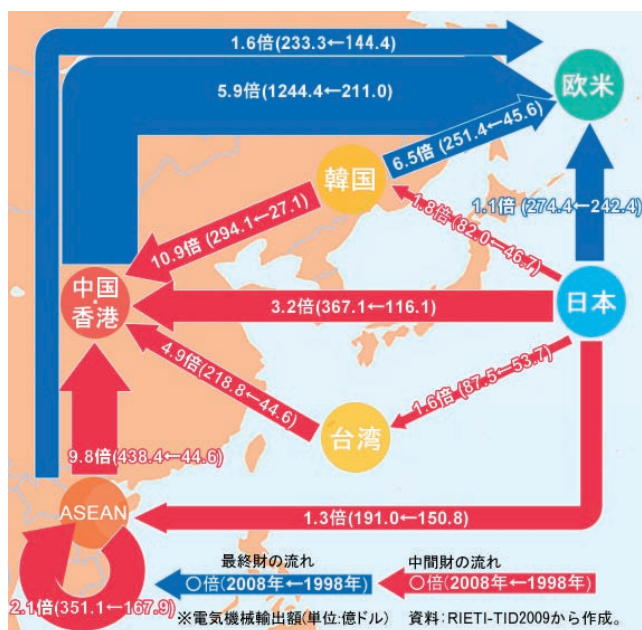


ここで、東アジアにおける中間財の貿易額が最も大きい電気機械について、中間財、最終財の輸出額から東アジア生産ネットワークにおける主な貿易の流れをまとめた（第2-2-1-11図）。

2008年の輸出額ベースで見ると、日本、韓国、台湾、ASEANから中国・香港に向かって中間財が、輸出され、中国・香港で加工・組立てられた最終財が欧米へ輸出されるというのが、東アジア生産ネットワークにおける主な貿易の流れである。一方で、日本から、韓国、台湾、ASEANにも中間財が供給されており、また、ASEAN域内でも中間財の貿易が活性化している。欧米向けの最終財輸出（2008年）は、日本は274億ドル、ASEANは233億ドルとなっているが、中国・香港の1,244億ドルと比較すると5分の1程度と小さい。

韓国の1998年と2008年の中間財・最終財それぞれの輸出額をみると、どちらも伸びが大きく（中国・香港向け中間財輸出は10.9倍、欧米向け最終財輸出は6.5倍）、同国は電気機械分野における生産ネットワーク内でのプレゼンスを高めていることがわかる。

第2-2-1-11図 アジア内における中間財、最終財の主な流れ（電気機械）



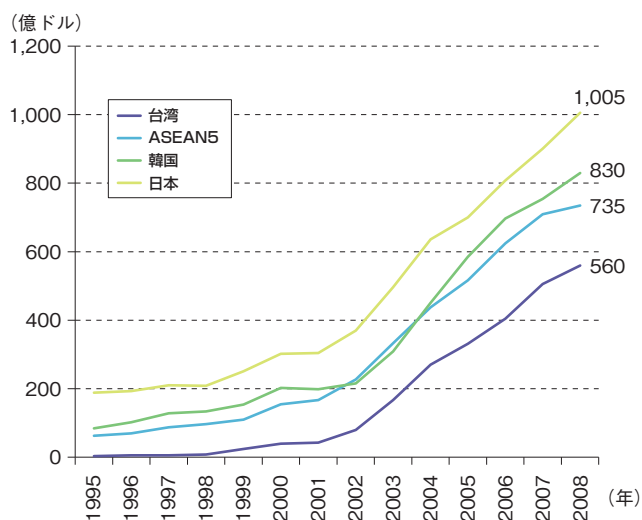
2 東アジアネットワークで低下する我が国の存在感

(1) 中国、ASEAN向け中間財輸出で低下する我が国の存在感

東アジア最大の最終財供給センターである中国へ中間財を輸出している東アジアの主な国・地域についてみると、1990年代は我が国からの輸出が他の国・地域の2倍以上と大きかったが、2000年以降、ASEAN、韓国、台湾といった国・地域からの輸出が大幅に増加している（第2-2-2-1図）。

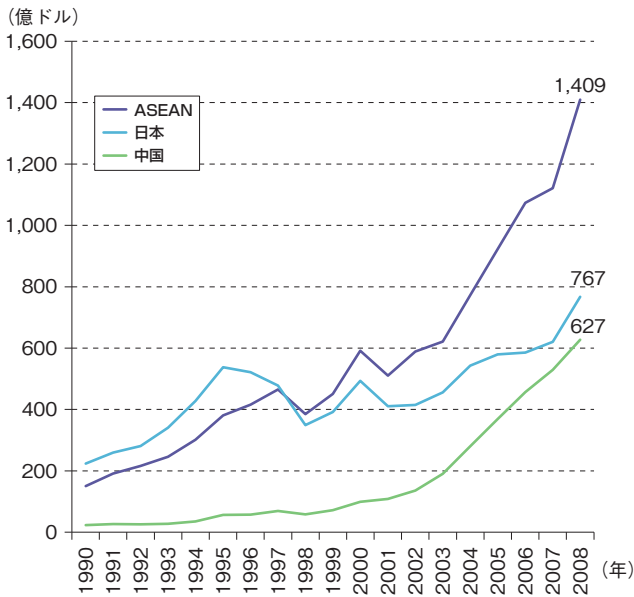
また、ASEANへ中間財を輸出している国・地域をみると（第2-2-2-2図）、最も中間財を輸出していた我が国は、1998年にASEAN域内輸出に抜かれ、急拡大する中国からの輸出額との差が縮まっている。

第2-2-2-1図 中国への中間財輸出額の推移



資料：RIETI-TID2009から作成。

第2-2-2-2図 ASEANへの中間財輸出額の推移



資料：RIETI-TID2009から作成。

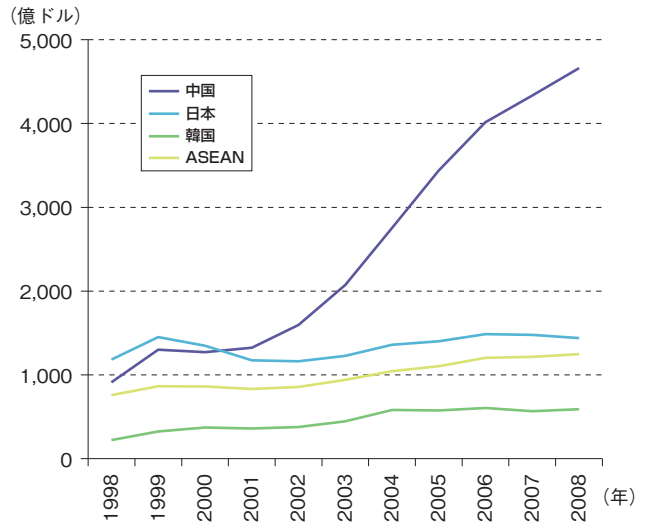
(2) 最終財の欧米向け輸出では中国が日本・ASEAN・韓国を圧巻

最終財の欧米向け輸出をみると、中国は、WTOに加盟した2001年に日本を上回り、その後も拡大し、2008年には4,661億ドルと我が国の3倍以上に上っている（第2-2-2-3図）。

(3) 東アジアの消費センターとしての日本の存在感の低下

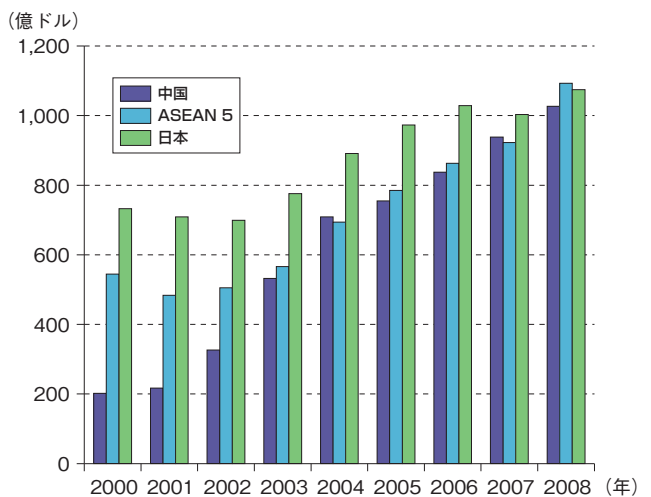
我が国は2000年には中国の3倍に相当する732億ドルの最終財を域内から輸入するなど、東アジアにおける消費センターとして大きく貢献してきた（第2-2-2-4図）。しかし、近年では、経済成長による所得の増加等により、ASEAN、中国の東アジアからの最終財輸入が拡大しており、2008年には、日本の最終財輸入額が1,075億ドルであるなか、ASEANが1,093億ドルと日本を抜き、中国は1027億ドルと日本の輸入額に近づいてきている。

第2-2-2-3図 中国、日本、韓国、ASEANから欧米向け最終財輸出額の推移



備考：米国とEU向け最終財輸出額の合計値。
資料：RIETI-TID2009から作成。

第2-2-2-4図 東アジアから日本、中国、ASEANへの最終財輸出額の推移



資料：RIETI-TID2009から作成。